

学校名	広島市立鈴が峰小学校
校長名	三島 幸枝
所在地	広島市西区鈴が峰町36-2
H P	<a href="http://www.suzugamine-e.edu.city.hiroshima.jp">www.suzugamine-e.edu.city.hiroshima.jp</a>
学級数	14学級
タイプ	・

1 研究の概要

(1) 研究主題

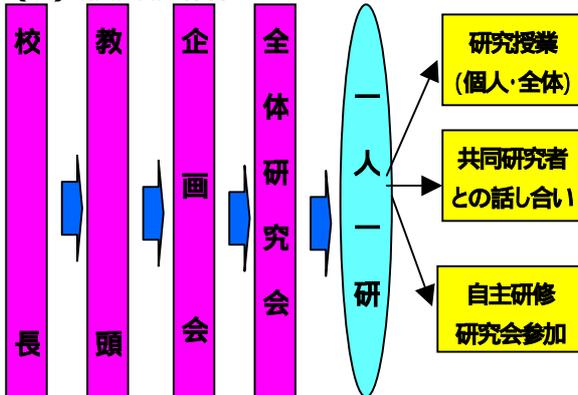
確かな学力を身につけ、自ら学び続ける子どもたちの育成

教科の特性を生かして、「ことばの力」を育むことを通して

(2) 研究のねらい

本校では、ことばの力を育むために言語環境を整え、言語技術を教えることを導入した。言語技術はコミュニケーション能力や論理的思考力を身につけさせるための効果的な方法と内容を含んだ活動である。さらに、身につけた技術を、どのような場面で、どの技術を使って表現するのかといった能力面の開発がなされて、生きた「ことばの力」となり得る。そのためにも、各教科の具体的な学習場面で、ことばで表現する経験を充実させていくことが重要である。

(3) 研究組織・体制



企画会

校長・教頭・主任・主事・パイロット教員を中心  
研究の推進企画の立案

全体研修会

研究の目的・推進方法について共有理解  
理論研修・・・専任講師による講座(うけて得する角田講座)  
講師・指導主事の講演  
様々な参考資料の配布  
研究授業・・・フリーカード方式・VTR 検証による  
パイロット教員による言語技術演習  
個人研究報告会  
児童発達講座・特別支援教育研修会

2 2年間の取組みの概要

(1) 研究の視点

論理的思考力を育成し、ことばの力を向上するための取り組みとして、言語技術を各教科に取り入れた構成付授業の研究をした。

\*構成付授業とは

構成付授業とは、考えを交流する場面を設け、多様な表現方法を活用して、コミュニケーション活動を行うことを通して、思考の過程を交流し、考えを練り上げていくことで、知識の構成が行われていく授業

(2) 研究内容

言語技術を各教科に導入していく。その方法の研究開発

「言語技術」の指導とは

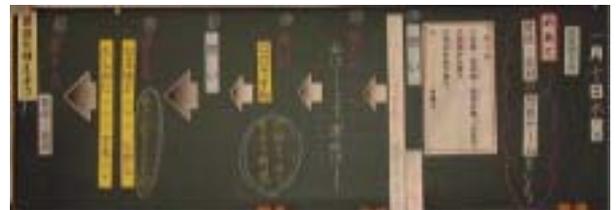
(聞く)(話す)(書く)(読む)を総合的に鍛える新カリキュラム  
理解力・読解力・論理的思考力が身につく  
(つくば言語技術研究所;三森かりか氏による)

「言語技術」を指導するための活動

受け答えをする技術・・・問答ゲーム  
要点をまとめる技術・・・再話  
構成を考える技術・・・物語の構造分析  
様々な角度から物事を見る技術・・・視点を変える  
情報を正しく伝える技術・・・描写・説明・報告  
情報を的確に分析する技術・・・絵・テキストの分析  
広島県「ことばの教育」の分類による)

研究教科等

国語・社会・算数・音楽・体育・特別活動・道徳・総合的な学習  
(英語活動・情報教育)  
授業実践別技術  
受け答えをする技術・・・問答ゲーム,(5年生)



要点をまとめる技術・・・再話(2年生)



構成を考える技術・・・物語の構造分析(5年生)



具体的取り組み

ことばの力の向上  
・ことばに対する意識の向上(あいさつ・敬語・語い)  
・各教科における表現力の育成  
話す・聞く力 書く力 読みの向上

言語支那力の向上  
 チャレンジタイム (ことばの時間)

言語支那についての理解を広げる

- 言語支那理解研修・演習
- 言語支那学習内容の開発
- 各教科等に言語支那を取り入れていく研究  
日常生活での取り組み
- 掲示例1.....言語支那

(問答ゲーム)



(説明)

(再話)



(絵の分析)



(五色百人一首)



(ことわざ)



掲示例3.....生活を取り入れる  
 (俳句ポスト)



(話型)



図書館教育推進の取り組み  
 (読書コーナー)



(親子ふれあい読書)



- 朝の読書・読書週間の取り組み・読み聞かせ
- お話ランド・図書室整備
- 図書室だより

体験の充実

各教科・総合的な学習の時間

学校行事

- 発表朝会・音楽朝会・体育朝会
- 校内読書感想文コンクール
- わくわくコンサート
- 児童会活動
- 地域とのつながり
- 地域マップ・敬老の日に向けて・子どもまつり
- 空き教室大学の方々との交流

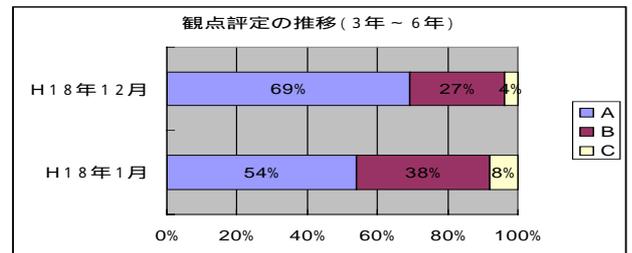
各種コンクールの応募・投稿・取材

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

言語技術を導入し、子どもたちの学力が向上した。

\*CRT検査結果より

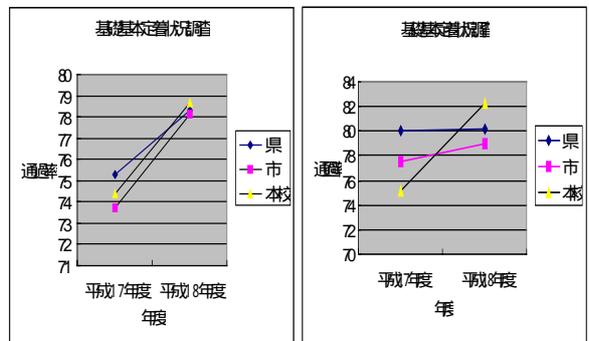


1・2年は比較資料がないため、3～6年だけとした。  
 観点評定は、Cが減少し(4%)Aが増加(+15%)している。

\*基礎基本定着状況調査結果より

(国語科)

(算数科)



国語・算数共に市・県平均を上回るようになった。

子どもたちのことばに対する関心が高まり、それを表現した  
 という意欲が芽生え、自信につながった。

\*アンケートより

「話す」「書く」ことに慣れ、苦手意識がなくなった。  
 他教科でも自分の考えに「理由」をつけられる。  
 相手を意識した学習(発言)になってきている。  
 あいづちをうちながらたまって静かに聞く力が育成された。  
 論理的に考える力が身についてきた。

言語支那の導入で、教師は、どう変わったか。

児童に論理的思考力を身に付けさせるためには、言語支那力の  
 向上は重要課題である。従って、「言語支那を取り入れて  
 授業を展開することは有意義と考える。」とする考えが広が  
 った。

教師の側が各教科において、基本的な話型や支那を意識して  
 取り入れようとする姿勢が全校一斉に高まっている。

一貫性のある指導ができるようになっていく。

#### (2) 課題

教科のねらいと一致したどの言語支那を、いつ、どこで、どん  
 なふうで導入することが適切か検討を続けていく。

「一人一研究」のよさを生かし教師個々の指導力の向上を図  
 る。(校内研修参加体制の一層の充実)

日常生活の言葉遣いの乱れを克服する取り組みの開発。

教科の特性を見直し、授業の工夫改善を図る。

教師個々の指導力の一層の向上を図る。

\*校内研修参加体制を考え、個人研究授業を気軽に見に行ける体  
 制づくりに一層取り組む。